

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	生活支援相談員派遣事業			事業コード	0429
担当課等	所属名	保健福祉部 高齢者支援室	担当係名		
	課長名	渡邊 光市	担当者名	保健福祉部 高齢者支援室 新屋博子	電話番号 3564

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード 1	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード 4
	基本事業	高齢者福祉サービスの充実	コード 2	関連予算 費目名	介護保険費特別会計 3款 2項 2目 任意事業(001-01)	
	特記事項					
事業期間	<input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度 ⇒ (開始年度 平成13年度～)					
事務事業の概要	現在、市営月が丘アパートの一部を高齢者向け住宅仕様とし、入居者の緊急時に対応可能な生活援助員を配置して、住宅と福祉の両面から高齢者の在宅生活を支援している。					
根拠法令等	盛岡市高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業実施要綱					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
市営月が丘アパートの改築にあたり、高齢者向けの住宅仕様とし、入居者の緊急時に対応可能な生活援助員を配置して住宅施策及び福祉政策両面から支援するシルバーハウジングプロジェクトに基づき、平成13年度に開始した。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
「安否確認の日に家に居なければならないと思うとわずらわしい。」「機械に監視されているようで、あまり好きではない。」など、一部の入居者からは干渉されたくないという要望がある。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどうか。今後の見通しはどうか						
平成19年度までに居室30戸の整備が行われたが、今後は戸数を増やす計画は無いことから、現状維持で推移するものと見込まれる						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	60歳以上の一人暮らし又は高齢者世帯。	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 65歳以上の独居。高齢者世帯(前年の高齢者名簿より)	単位	人
				B.	単位	
				C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) 安否確認業務、非常時・緊急時の対応業務 23年度計画(23年度に計画している主な活動) 安否確認業務、非常時・緊急時の対応業務	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 入居世帯数	単位	世帯
				B. 委託料支払実績	単位	千円
				C.	単位	
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	入居高齢者が、安心して生活を送ることができる。	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 安否確認 【指標の性格:○上げる ○下げる ●維持する】	単位	回
				B. 緊通対応(誤報含む) 【指標の性格:○上げる ○下げる ●維持する】	単位	回
				C. 【指標の性格:○上げる ○下げる ○維持する】	単位	
⑦結果 (上位基本事業の意図、上位の基本事業にどのように貢献するか)	日常生活を安心して不便なく送ることができる	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	相談などを受けている高齢者数(単位:人) 介護予防事業参加者数(単位:人) 介護保険サービス利用者数(単位:人)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	65歳以上の独居。高齢者世帯(前年の高齢者名簿より)	人	24,524	25,567	26,000	27,074	27,500		年度
対象 指標B									年度
対象 指標C									年度
活動 指標A	入居世帯数	世帯	27	24	27	25	27		年度
活動 指標B	委託料支払実績	千円	1,758	1,713	1,802	1,756	1,802		年度
活動 指標C									年度
成果 指標A	安否確認	回	1,239	1,188	1,240	1,239	1,240		年度
成果 指標B	緊通対応(誤報含む)	回	10	10	10	22	20		年度
成果 指標C									年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	1,758	1,713	1,802	1,756	1,802		*****
財源 内訳	④国	千円		685	720	702	720		*****
	⑤県	千円		342	360	351	360		*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	1,758	342	360	351	360	0	*****
	⑧その他	千円		344	362	352	362		*****
	合計(④~⑧)(=A)	千円	1,758	1,713	1,802	1,756	1,802		*****
	延べ業務時間数	時間	65	65	65	65	65		*****
	職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)	千円	260	260	260	260	260	0	*****
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,018	1,973	2,062	2,016	2,062	0	*****


3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている	理由: 入居者の生活の不安を解消することを目的としていることから結びつく。
	② 公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である	↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 事業主体が市であり、他に実施できる機関がない。
	③ 対象の妥当性 対象の設定は現状のままでもいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: ひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯を対象としており、妥当である。
	④ 意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	↳ 「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input checked="" type="radio"/> その他 理由: 高齢者の見守り支援事業として実施しており、妥当である
有効性評価	⑤ 成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 向上余地がない	理由: 入居戸数が限定されている。。市営住宅整備と一体的に進める事業であるが、現状では増える予定がない。
	⑥ 廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある	その内容: 入居者の生活不安解消が図られない。
	⑦ 類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 類似事業がある <input type="radio"/> 類似事業がない	事業名: シルバーメイト事業 ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> できない 理由: 住宅整備と一体的に進める事業であることから、統廃合することができない。
効率性評価	⑧ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 生活援助員に要する経費を事業費としており、削減できない。
	⑨ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 約事務や緊急時の対応に係る時間で、削減できない。
公平性評価	⑩ 受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: 市営住宅の入居条件に合わせている。
	⑪ 費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: 実施要綱の中で、所得段階による負担額を定めている。

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1, 代替案その2とすること 現状維持で事業を進めることになるが、国の高齢者専用住宅施策を見極めながら、住宅関連施策部署と連携していく必要がある。 ②改革, 改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか? それをどう克服していきますか? (関連部門や全庁的な調整の必要性, トップへの要望も含む)
---------	--

5. 課長意見

一次評価	(1)一次評価者としての評価結果 ① 必要性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり ② 有効性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり ③ 効率性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり ④ 公平性 ● 妥当 ○ 見直し余地あり	(2)全体総括(振り返り, 反省点) 見守り支援の取組みとして、事業の必要性は高い。事業内容を検証しながら、継続する必要がある。
今後の方向性と改革改善案	(3)今後の事務の方向性(改革改善案) <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	
 方向付けの理由と改革改善の内容		